

平成 19 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査  
第 2 回地域検討会（福井県） 議事概要（案）

日時：平成 19 年 11 月 19 日(月)

19:00～21:00

場所：坂井市三国総合支所 4 階会議室

議 事

開会（19:00）

1. 資料の確認

2. 議事

① 第 1 回地域検討会議事概要及び指摘事項について〔資料 1、資料 2〕

② 概況調査結果概要について〔資料 3〕

③ クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要について〔資料 4〕

④ その他調査の進捗状況について〔資料 5〕

⑤ 質疑・意見交換

3. その他連絡事項

閉会（21:00）

配布資料

資料 1 第 1 回地域検討会（福井県） 議事概要(案)

資料 2 第 1 回地域検討会での指摘事項に対する対応(案)

資料 3 概況調査結果概要

資料 4 クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要

資料 5 その他の調査の進捗状況

参考資料 1 今後の調査スケジュール(案)

平成 19 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査地域検討会（福井県）

第 2 回地域検討会 出席者名簿

（敬称略）

検討員（五十音順、敬称略）	
井 黒 虎子男	米ヶ脇自治会 会長
(代理：波多野 勲)	( 同上 副会長)
大 竹 臣 哉	福井県立大学生物資源学部 教授
勝 又 久 雄	海上保安庁第八管区海上保安本部 福井海上保安署 署長
(代理：田中 滋)	( 同上 次長)
坂野上 芳 行	東尋坊観光協会 会長
阪 本 周 一	エコネイチャー 彩 みくに 会長
下 影 務	安島自治会 会長
新 宅 隆	梶自治会 会長
鈴 木 隆 史	越前松島水族館 館長
玉 置 文 志	国土交通省近畿地方整備局 福井河川国道事務所 副所長
難 波 英 夫	崎自治会 会長
前 田 孝 夫	坂井市生活環境部環境衛生課 課長
増 永 裕	福井県安全環境部廃棄物対策課 課長
松 井 康 彦	国土交通省北陸地方整備局 敦賀港湾事務所 工務課長
矢 尾 良 雄	福井県土木部砂防海岸課 課長
(代理：中村 勉)	( 同上 主任)
矢 口 眞 治	雄島漁業協同組合 組合長
オブザーバー（所属機関名）	
福井県安全環境部廃棄物対策課リサイクル推進室	
福井県土木部砂防海岸課	
坂井市生活環境部環境衛生課	
坂井市三国総合支所産業課	
環境省 地球環境局	
草 刈 耕 一	環境省中部地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課 廃棄物対策等調査官
事務局：日本エヌ・ユー・エス(株)	
井 川 周 三	地球環境ユニット
松 土 康 雄	生物科学ユニット
高 橋 理	地球環境ユニット

## 議題1 第1回地域検討会議事概要及び指摘事項について（資料-1、2）

質問・コメント等は特になし

## 議題2 概況調査結果概要について（資料-3）

1) 航空機調査が8月に実施されているが、季節的な位置づけは特に問題はないのか。

→ゴミの量は撮影した時期に大きく左右される。特に福井県の場合、季節風が吹き止んだ春先に一番漂着ゴミが多いと言われているので、その時期に撮影するのが一番ベストと考えている。春先は天気、気流の状況があまり撮影に適さないので、県下全域をくまなく撮影するのは難しい。今回はクリーンアップ調査の前に現況を把握するために、8月に撮影を行っている。

2) 何か指標を持って補正することは考えないのか。そうしないと、この時期のゴミの量が福井県のベースとなるような気がする。

→最終的な結果については、注釈として撮影日と夏の状況であることは加えるべきと考えている。

3) 1回だけのデータをどういうふうに解釈するか。量を解釈するのか、出入りを解釈するのかで随分違ってくるのではないのか。

→1時期だけの写真撮影なので、ゴミの出入りというフローについて把握することは難しいと思う。要望があれば、来年度も特に多い時期だけ、特定の海岸に限って撮影することも検討すべきと考えている。この航空機調査とあわせて、文献調査で、定期的な清掃活動の情報も整理する予定である。

4) どこの場所に多く集積するということは概況調査で大体わかる。現在行っている三国地区の現場調査で、最新の精密なデータが出てくると認識されるが、あくまでも、この三国地区は一代表点であるということで、県の立場とすれば、全域の今後の対策が必要になるかと思う。そういう意味で、概況調査の重要性というのを考えてほしい。

→検討する

## 議題3 クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要について（資料-4）

1) 海藻の回収を今後どうするか、この検討会で決めていただきたい。

2) 害になるかわからないが、いずれにしても自然物で、微生物が分解していく。地球の歴史上、海藻が生え始めたころから海の自然の状態としてあったわけで、それが打ち上がったあるいは切れ端が流れ着いても、人間の手で処分しなくても、自然界でのサイクルの中で処分してくれるので、それはゴミというふうな考え方をしないほうが良いと思う。

3) 戻したほうが良いというのではないが、自然の力に任せとけば良いと思う。流れ藻という形で、稚魚などの生育の場にもなる。

4) 海岸線の昔から見る風物詩として見なれているので、違和感が全然ない。

5) 私も回収しない方が良いと思う。ただ、海水浴場や船着場ではたくさん堆積して腐って異臭がするので、必要にかられて部分的に回収するというような方法をとっている。ここに指定されている海岸では、ほとんど今まで海藻をゴミとして扱ったことはない。

6) 冬季の調査をどうするか。

→3回目の調査を2月に予定しているが、それについては海況を見ながら、安全に実施できる日

を待つて調査をしたいと考えている。その結果、2月から3月にずれ込むということも考えられる。

7) 作業限界みたいなものはあるのか。

→やはり作業員の安全が第一で、安全に浜におりられないような状況では調査は延期したいと考えている。

8) 冬季、2月、3月の調査の可能性はどうか。

9) 1月、2月は危なくて絶対できない。早くても3月の末。

10) 天気には合わせられない。冬場は、地区住民を募集することはできるが、責任を持ってないので、動員することはできない。

→それでは、3月末を中心に予定を組んでいきたいと思う。

#### 議題4 その他調査の進捗状況について（資料-5）

質問・コメント等は特になし

#### 議題5 質疑・意見交換

1) 外国製のゴミを種別しているが、他地域との比較ではどうか。それと、医療廃棄物も他地域と比較してどうだったのか。

→他地域との比較は現在、調査、比較をしている段階で、まだデータがそろっていないが、地域によってばらつきが見られる。

2) 標識放流についてもう1回説明してほしい。

→山形県と三重県の河川において、2種類の放流調査を実施する予定でいる。1つは生分解性のプラスチックボトル、放流して、1つの河川から出たものがどこにどれぐらい割合として漂着するかという調査を山形と三重で実施する。また、ペットボトルの中に発信機を入れて、それを河口から放流して、その漂流経路を把握するという調査を三重県で行う。

3) 九頭竜川で実施する方向性はないのか。

→今年度については山形と三重の2カ所、それ以外の地域では今のところ予定していない。